

ソーシャルにながれて通信

ソーシャルプランニング流 広報誌 創刊準備号

代表取締役からの言葉

はじめまして、藤井健（ふじいたけし）と申します。もともと私は平成6年より精神保健福祉関係の事業所で働いていました。日々、いろいろなことがあり、面白いこと・シンドイこと、何かとありました。

ある時、ちょっとしたことでその福祉業務から離れることになり戻ってくるつもりはなかった。生きていくうえで医（衣）・職（食）・住・趣において住関係があまりよくわかっていないので不動産業界にもぐりこんだ。

この業界難しいなあと思いながら勤めていたが、考えた結果やっぱり福祉職だなあと思い、知り合い（現在の取締役）となんかしようとファミリーレストランでよく話をしていた。その時によく使っていた言葉で「家うつ、外出そう病」とよく言っていた。家では鬱状態で外に出るとものすごく元気になる。2人の問題は安定した働くところがなかったという事であった。

はじめはNPO設立なども考えがあったが、もともと私は芸術家になりたかったこともあるのか、自分のエゴを通したいと株式会社の設立にいたった。

自分のエゴについては「生きるってなんやねん？」というテーマが近いかもしれない。（ミュージシャンでもなく画家でもなく…魂と魂のぶつかる何か？よくわからないことをしています。）

人それぞれ生き方が違うと思う。しかし画一的に決められた生き方や人生観、その線路からはみ出たり脱線すると負け組と決められるように感じさせる世界。「ふざけるな」と憤り叫びたくもなる。根底にそういった心がある。

話はもどりに以前に福祉職をしていた時、ほとんどの障害者の方々働きたいという気持ちがあることを聞いていたので、精神保健福祉法に基づく福祉工場を作りたいと常々と考えていた。現自立支援法では就労継続支援A型である。

何をしたらいいのかよくわからないまま、まずはすることに意義があると環境整備を考えただけで設置をし中身がともわなかった。パソコンを使った業務ではあるが、なかなか事業展開までにはならず日々悶々としていて、すぐに倒産に近づきつつあった。う〜ん借金どうやってかえそかなあ〜って考えてばかりいたが、なぜか気持ちとしてはそんなにしんどくはなかった。

そうこうしていると、大阪市より入札事業が舞い込んできて自転車対策事業が始まり、WEB講習も組みあがっていった。そして2事業所目・3事業所目の設置に向けて動いている。



代表取締役 藤井健

Contents

1. 代表取締役からの言葉
2. Zuboranian's Wake (1)
3. S P流 History
新設！共生労働センターカサンドラ
4. 未知の音は明日の道
5. 放置自転車啓発業務 報告書
～モリエッティ 23歳の決意～
6. せふいろとイベント
voice of nishinari - 西成の声 -
うえで SONIC
7. ながれのひろば
8. Access せふいろと&カサンドラ MAP
編集後記

株式会社ソーシャルプランニング流

【理念】

「人と人が支えあう協働のソーシャルワーク」

【運営方針】

- 自己実現
誰しものが自己実現できる社会に
- 社会貢献
社会的に価値のある事業展開
- 創造と発展
新しい発想でより良い社会の創造と発展に寄与する

Zuboranian's Wake (1)

ズボラニアンズ ウェイク

坂根匡宣

「フリーター」、「パラサイト」、「ニート」、今年も新語ができた「レイブル」という言葉らしい。語源は「レイトブルーマー」の略で訳すと「遅咲き」の意味。「働く意思を持って行動を起こしているにもかかわらず、仕事に就けていないニート状態の若者」のことだそう。マイナスイメージの強い「ニート」に代わる新たな呼称として発信し、働く意思があり頑張って生きている人の就労を後押ししていくことを目的に大阪府で広めている。

でも、私は「レイブル」という言葉には少し違和感を感じる。「レイブル」という言葉は、働けない状態だけでも頑張って働く意思のある人は応援しようという言葉で、働かない人、つまり働く意思のない（ように見える）人を排除する言葉であるからだ。だから、ソーシャルプランニング流で行なっている取り組みとは感覚的に違う。

もちろん、政策として、まず「働く意思のある人」をしっかりとサポートし就労に結びつけ社会参加を支援していく為の取り組みとして理解はできる。しかし、実際、ソーシャルプランニング流で就労支援をしていて、本人の意思の有無よりも「働かない・働けない」状態というのは非常に複雑な問題がからみ合っただけで起きる問題であることを実感している。

「働かない・働けない」状態にある理由というのは、個別的にみると、社会のあり方、家族関係、個人の障害や病気などを含めた生活機能、現代の価値観の問題などが複雑にからみ合っただけで、これらの状況が出来上がっている。そうした状況は今の社会では全ての若者に当てはまり、働く意思のある「レイブル」、家族等に寄生する「パラサイト」、そして「フリーター」など全て同じような福祉ニーズをもっている。だからソーシャルプランニング流で目指している就労支援は働く意思があろうがなかろうが、今の社会で生きづらさを感じる人たちを、人として尊重し共に生き、事業所利用者、支援者双方が働きながら自分らしい自立をすることを目指している。

一方、社会統計をみるとニート状態の若者は全国で約60万人、大阪府には約5万5千人いる。日本そして大阪の経済においてこれだけの人たちが「働かない・働けない」状態にあるというのは、大きな社会的損失なのは間違いない。さらに、これから「地域社会の脆弱化」、「高齢化」と「核家族化と個人化」が進む中で今まで家族に守られながら「ニート」や「レイブル」などとして暮らしてこれた人たちががどんどん居場所を失い仕事につけず貧困に陥っていくのは想像に難くない。そして、その内、身体障害、知的障害、精神障害などの障害手帳所持者がどれほどの数に及ぶのかは想像するしかないが、最

近の障害者定義の範囲の広がりから、未だ手帳などを取得していない発達障害などを含めるとかなりの数に及びと考えられ、そうした方々が現在の厳しい就労環境の中では一般就労することが益々難しくなっている。そもそも、一般就労できていれば「ニート」をする必要がなかったような、様々な福祉ニーズを抱えた人がたくさん隠れているのである。今後こうした家族等に支えられていた「レイブル」や「ニート」たちが、家族の高齢化などでパラサイトできなくなり貧困に陥っていき、社会全体で支えていくことになる。このような問題は、すでに他人事でなく、もう身近な自分の問題となっている。

今、障害に伴って働く場を失った場合。選択肢は、「一般就労」か「福祉的就労」という選択肢を迫られる場合が多い。代表も私も、福祉的就労の場に関わってきて、自分が働けなくなって障害者になったと想像した時「一般就労」もできないし、「福祉的就労」なんて自分自身が利用すると思うとゾッとするような現状があるのを知っていた。なんとか自分たちがどんな状況になっても満足できるような就労の形が欲しかった。そして自分が利用したい事業所を立ち上げたいと思ってつくったのが「就労創造センターせひいろと（就労継続支援A型）」だ。

今、当法人では事業の継続と安定した運営をするために、障害者自立支援法に基づくサービスをおこなっている。法律に基づくサービスである以上、「就労移行支援」、「就労継続支援A型」、「就労継続支援B型」という事業を展開せざるをえず、どうしても「福祉的就労」の枠を越えられないでいる。しかし、当法人では、障害福祉サービスという体をなしているが、意識的には、あくまでソーシャルファームや社会的企業といわれるような一般就労と福祉的就労の「中間的就労の場」を目指して取り組んでいる。非営利法人でなく株式会社で運営を始めたのも、いわゆる「福祉的」という枠を越えていきたいからだ。

「レイブル」という言葉のように、より良い福祉的取り組みが人を排除していくように機能する時がある。福祉的就労の場も同じことがいえ、福祉的就労の場に意味はあるし、今のところ社会における必要な機能だ。しかし、歴史的にも福祉的就労の場は、障害者を福祉的枠組みの中に閉じ込め社会から排除するように機能したことは否めない。

ソーシャルプランニング流では、みんなで協力し合っただけで、社会等に働きかけていき、だれしもが役割、居場所、尊厳を見いだせる社会にできるよう、新しい働く仕組みを創造していくことで、この社会の淀みに新しい流れを創っていくこと（ソーシャルワーク）を目指し、だれも排除しない就労の形を創造していきたい。

新設！共生労働センターカサンドラ

就労移行について

椿野勇輝

ソーシャルプランニング流は、今年の4月から職員を補充し8月に共生労働センターカサンドラを開所しました。私自身も共生労働センターカサンドラの就労移行支援事業の支援員として、就職に向けた支援に取り組んでいます。

カサンドラでの就労支援は、その方に適した就労支援を目指しています。フルタイムで業務が出来る方のマッチングだけではなく、短時間労働の方に対しても就職できるように積極的な支援をおこなっています。利用者のうちホームヘルパー講座に受講されている方が1名、障害者職業相談・評価を受けられている方が1名います。

この二人の方は元々せむいろうと（就労継続支援A型）に通っていた方です。一人はとても就職に対して積極的で、ホームヘルパー講座に行きホームヘルパー2級を取得し介護の仕事に就きたいと意思がはっきりしていたので、就労移行に切り替え支援する事になりました。

もう一人の方は、医師の勧めなどもあり、短時間で働くことを希望されていました。そこで、障害者職業センターがしている職業相談・評価のことを説明した後、その方に適した職場を見つけるために評価・情報を得ることと、ジョブコーチ支援を利用するために移行支援に切り替えて支援をおこなっています。どちらの方もとても熱心に就職するための訓練や活動をおこなっています。



ペンタブレットを使い、
フォトショップで制作しました。



私が誰だかわかるかな？



わからないことがあればすぐに駆けつけます！



基礎から応用まで、その人に合わせた
テキストを使用します。

専門ソフトを使った学び

【講師より】

ここでは、フォトショップやイラストレーターの基本的な使い方やホームページの作成方法を学ぶことができます。ソフトを使い、画像の編集やイラストやロゴの作成、また自身のホームページの作成をすることができます。最初はソフトの事や専門的な知識などを理解するところから入るので、思うように作品を完成させることが出来ないこともありますが、毎日少しずつ制作を続けていけば、どんどん理解出来るようになります。一通り学んだあとは、各自興味のある事を勉強し始めます。自身で制作したイラストを使いアニメーションにする方、3D作成ソフトを使い平面のイラストを3Dにする方など、いろいろなことに挑戦しています。中には、ここで学んだことを活かし、フライヤーの作成や、キャラクターデザインをしている方もいます。このように、ものを作る楽しみを知り、それを仕事に繋げていって欲しいと思っています。

未知の音は明日の道

加藤吉樹

イントロもなしに突然ですが、自分の話から始めようと思います。

僕は普段、楽器を演奏する日々を送っています。一人で演奏することもあれば、何人かで演奏することもあります。大人数の前で演奏することもあれば、一人のために演奏する時もあります。誰にも聴かせられないような、ただの練習をひたすらしているときもあります。演奏することで、いろいろなことに出会います。そんな日々を通じて感じたことを書いてみようと思います。

現代社会は音楽に溢れています。街に出れば、ありとあらゆる方向から音楽が流れてきます。電車を待っているときに流れてくるチャイムも音楽といえば音楽です。少し出歩くだけで、気づかないうちに数えきれないほどの曲の断片を耳にしていることになりま。家に帰っても、テレビをつければ秒単位で入れ替わっていく音楽の洪水。ケータイの着信音も何かの曲だったりします。技術の進歩により、音楽を切ったり貼ったり、大音量で流したり、世界中に発信したりということが手軽にできるようになりました。

このように普段耳にしている音楽のほとんどが、加工された音楽です。何らかの手段を使って作られ、加工された音がスピーカーを介して人々の耳に届いています。

一方で、全く加工されていない音楽も現代社会にはまだまだ根強く残っています。聴衆の前で行われる生演奏や母親の子守歌、日常の鼻歌などの生の音楽です。加工された音楽にも生の音楽にも同じ「音楽」という言葉が使われますが、全く別のものなのではないのか、と思うくらいの違いがあります。

今回は僕が普段接している、生の音楽の面白さに焦点を当てたいと思います。

生の音楽というのは音を介した、人と人とのコミュニケーションだと考えることができます。演奏者と聴き手の間には何らかの交流が生じます。演奏者同士の間にも言葉で交わす会話とはまた違う形での意志の疎通が行われています。

例えば、聴衆を前に行われている生演奏の場では、単に音楽を演奏したり聴いたりすることだけではな

く、予想外に起きたことに驚き、笑い、感動したりといったことがあります。演奏者の発した音が聴き手に伝わり、聴き手の反応（あるいは無反応）が演奏者に伝わります。その影響から演奏者にとっても初めての、聴いたことのない音に出会います。数えきれないほど練習した曲でも生演奏の場では見たことのない表情を見せます。その瞬間にどうするか、ということで演奏者の人間性が出ます。

演奏者も聴き手もそういった場を経験することで、今まで気づけなかった新たな楽しみを見つけることが出来ます。そしてその経験をすればするほど、楽しみに深みが増していきます。そのことはその人の生き方にまでつながっていくのでは、と思います。

また、演奏者にとって演奏するという事は、人前に自分のことをさらけ出すということです。普段の会話で自分のことをどんなに大きく見せていても、いざ演奏すると、隠しようのない本来の姿が剥き出しになってしまいます。ごまかすことは全く出来ません。

その上でのコミュニケーションだからこそ、スリルがあるし、面白いのだと思います。

加藤さんは、日本では数少ないウッド奏者として、様々な場所でライブをされています。

ウッドはアラブ諸国を代表する弦楽器で、ササン朝ペルシャの楽器バルバトがルーツとされています。日本の琵琶も同じ楽器がルーツとされ



ているので、ウッドと琵琶は親戚関係にあたります。その後、ヨーロッパに渡り、ギターのもとになりました。弦は複弦になっていて、深い音色が心にしみみます。ボディにはアラバスク模様の透かし彫りが施されていて、裏は寄木細工で出来たとても美しい楽器です。

放置自転車啓発業務報告書 序章

～モリエッティ 23歳の決意～ 【kamekichi】

1年前の夏の暑い日。当時、女子専門学生のモリエッティは悩んでいた。場所は日本橋のオタロード。住所で言うと「大阪府大阪市浪速区難波中2丁目付近」。いわゆるオタクたちの聖地といったところか。私はそこに「自転車」で来ていた。

目的は一つ。その日、私はペンタックスのカメラを買うために、わざわざ兵庫県からはるばる自慢のマウンテンバイクにまたがり、片道1時間という無駄な労力と時間を費やしてここまで来たのだ。

もう引き返すわけには行かない。喉もカラカラに乾いているが、電車賃も節約してきたのにここで無駄なお金を使う訳にはいかない。私は小さい体で大きな決心を抱き、自転車をそこらへんの歩道に駐輪し、オタロードを徒歩ですすんだ。ふと、緑色のベストを着た小さい女性が、寂しそうな目で私を見ていた気がした。

一店舗目のカメラ取扱店（店舗S）の前には、私の侵入を阻むかの如く、自転車が店舗前でバリケードを作っていた。

私は驚愕した。兵庫県ではこんなモラルのない光景を目にしたことがなかった為、大阪は恐ろしいところだと再確認した。そんな自転車のバリケードをかいぐり、私は店内へと滑り込んだ。…と思ったが、私の自慢の膝上8cmのスカートの裾があらうことか、バリケード自転車の一台のハンドルに引っかかり、ドミノ倒しかの如く、バリケードは決壊した。「私っ、知らないもん！ここに自転車をとめる人が悪いんだ！」と吐き捨ててモリエッティは店内へと姿を消した。自分が自転車を放置している事実から目をそらして。。

店内に入り、目的のカメラを探した。しかし、店内には目的物であるペンタックスのブルーボディのカメラは品切れ入荷未定という札が貼られていた。がっかりしながら、私は二件目の店（店舗J）へと向かった。店舗前にはお行儀よく自転車が整列していた。それは小学生時代の、体育の授業風景のようにも思えて、ふ

と小学生の時にサンタさんからもらったお気に入りの緑の自転車のことが頭に浮かんだ。あの時の自転車は確か、買い物に行ったとき鍵をかけ忘れて、誰かに盗られてしまったんだっけ。なんか心が寂しくなった。そんなことを考えながら私はカメラ売り場に呆然とたっていた。「何かお探しですか？」店員の声にハッとし現実に引き戻された。「あっ、あの。ペンタックスの青いカメラが欲しいんですけど…」「PENTAX K-30ですかね」「それです！」私はカメラの入った紙袋を持ち、自転車をとめた場所に意気揚々とスキップしながら引き返した。

…辿り着いたものの、私は私の見た光景に目を疑った。そこは荒廃した戦場かの如く、その場には自転車が1台たりともなくなっていた。その代わりに地べたに「8月15日撤去しました」といった内容の紙がベタ張りされているだけだった。

私はただただ呆然と立ち尽くすしかなかった。素直に駐輪場にとめておけば二百円ですんだものを、自分自身の浅はかな行為で、撤去自転車引取り料金二千五百円と、芦原橋駅までの電車賃と労力を無駄にしてしまったことに気づいた。放置自転車は、他人にも迷惑をかけ、自分自身も後悔する行為だと知った。私は後悔の念に苛まれた。そこをタバコを啜った初老の男性が自転車で通りすぎた。枯葉のような煙風。私は秋の寂しさを感じた。

イマ、モリエッティは緑のキャップ。緑のベスト。名札に腕章。それらを身にまとい私は働いている。就労創造センター せふうろとの放置自転車啓発指導員として。浪速区民の幸せのために私はどこからでも誰からでもわかる蛍光グリーンジャケットを着用し、自転車を放置しようとする人々に声を掛け続ける。一人でも多くの人に啓発するために！一人のマウンテンバイクに乗ったあどけない表情の女の子が自転車を放置していった。モリエッティは声をかけたが無視されてしまった。私は悲しい気持ちでその小さな女の子をずっと見ていた。



3人で一つのチーム

「放置自転車啓発業務について」
放置自転車の台数は大阪府が全国1位という現状があります。その現状に対処するため、大阪府は、放置自転車啓発業務（サイクルサポーター）の取り組みをはじめました。就労創造センターせふうろとは浪速区、西成区、港区からこの業務を委託されています。上記の文章は、浪速区での放置自転車業務にまつわる小説です。放置自転車業務は、小説中に登場するような4点セットを身にまとい、放置自転車を少しでも減らすことができるよう、止めようとする人に声をかけを行っています。声をかけ続けることで、モリエッティのように、自転車を撤去されてしまう悲劇をなくすることができるかもしれません。

せふいろとイベント

Voice of Nishinari - 西成の声 - は、大阪市西成区を中心に、生活保護や社会保障・社会的起業・ホームレス問題・仕事づくりなどの事について どうすれば良い環境づくりが出来るのか、改善出来る点はないか、などを考え、発信する地域・地元密着型のローカルネット放送局です。

10月15日には経済学の専門家で西成特区構想の座長を務める鈴木巨先生をゲストにお迎えし「鈴木巨先生に直接伝えたい！これからどうなるの？生活保護制度」と題した討論会をせふいろとで行い、その様子を USTREAM 配信しました。

今回の放送では、現在生活保護を受け「稼働層」とされている方から寄せられたコメントをもとに、率直な討論を通して、当事者とともに日本に必要な政策や仕組みを考えていきました。

西成特区構想有識者会議ではほぼノーカットでお伝えする事をモットーとし、よりリアルな白熱した議論の模様をお届けしています。今後とも Voice of Nishinari - 西成の声 - をよろしく願っています。

西成の声 <http://vonishinari.net/shadoon/>

うえで SONIC

せふいろとによる音楽イベント、題してうえで SONIC。その第一回目が8月22日に開催された。職員が、それぞれ得意分野で出し物を披露。弾き語り、コント、マジック、ぬいぐるみ劇、ハルーンアート等々…グダグダになりながらも、普段とはまた違ったせふいろとの雰囲気が出ていたのではないのでしょうか。そして、第2回目にその魂は引き継がれていくのです。そんな第2回目は、メンバーさんの参加率も増え職員と一緒に音楽イベントを作り上げていきました。このイベント主催者の上出職員からこのイベントにかける想いを語っていただくことにしましょう。



曲名：Fly me to the moon



曲名：尾崎豊「CORE(核)」

Voice of Nishinari

- 西成の声 -



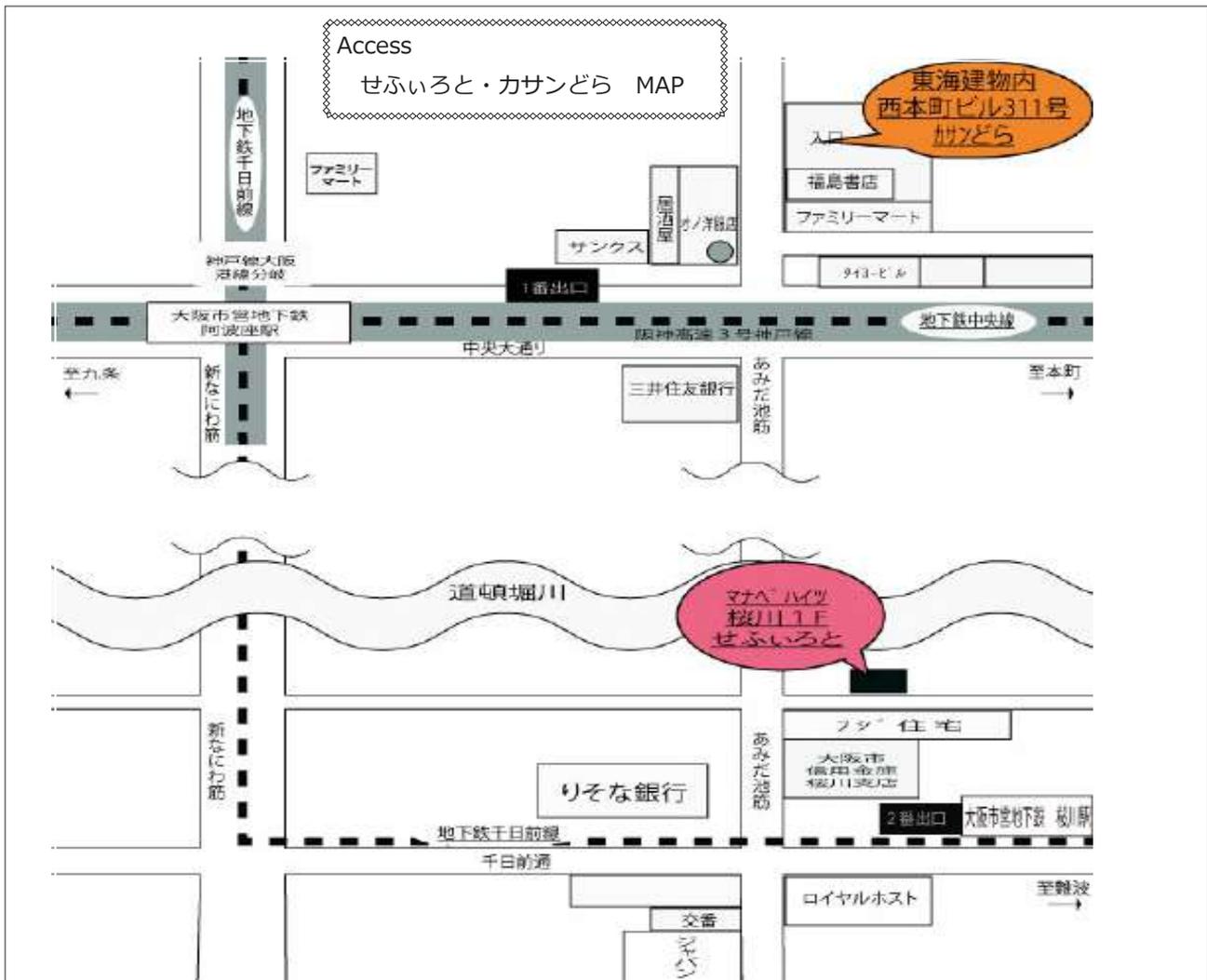
真ん中にいるのが鈴木巨先生です。



ふと気づけばせふいろとに入社してもお半年が過ぎていた。そして思った。働き初めた時と比べて随分と人が増えたが、一人ひとりと向き合って話す時間が減ったと。自分の頑張りが足りていないだけかもしれないが、僕はそお感じました。

そこにきっかけが転がり込んできた。毎年開催されているそよ風祭り、社長が不意に言ってきた萬福寺でのイベントでの活動。僕はリーダーに任命されたのだが、ここで思った。「うん、絶対むりだよね(笑)」と。でもこの大人の世界。社会人1年目の僕はやるしかないと思考えたのが、イベントへ向けての練習、そして職員とメンバーさんとの距離を縮めるためにせふいろとでイベントしよう!!! それがうえで SONIC (うえソニ) の始まりです。

事務所内だけという小さな世界かもしれないが、僕はうえソニで確かな笑顔をたくさん見ることが出来ました。このうえソニを通じて、メンバーと職員との距離がもっと近くなれるように。せふいろとに来て頑張っている人の笑顔や楽しみを一つでも増やせるようにという願いを込めて、うえソニはこれかも続けていきます。この事業所の看板行事になるといいな(笑)



株式会社 ソーシャルプランニング流 <http://www.sp-nagare.com/index.html>

《社会福祉サービス事業部・営業部》

- 就労創造センターせふいろう (就労継続支援 A 型)
 - 〒556-0021 TEL: 06-6562-7735
 - 大阪市浪速区幸町2丁目4-15 マナベハイツ桜川1F メール: sephiroth@sp-nagare.com
- 共生労働センターカサンドラ (就労継続支援 B 型 就労移行支援)
 - 〒550-0005 TEL: 06-6535-7300
 - 大阪市西区西本町2丁目5-19 東海建物西本町ビル311 メール: kasandora@sp-nagare.com

徒然なるままに。 編集後記 【富田森絵】

この広報誌を作るにあたって、中々、周りを巻き込んで仕事をするのは難しいなと感じています。

元々、一人でこちょこちょと取り組むのが好きな方がございまして、仕事においても自分の中だけで抱え込んで、堂々巡りになってしまうこともしばしば。

そんな時、少しでも悩みを発信できる機会があれば、その悪循環から脱出できたりするのです。しかし、脱出できたとして、待っているのは次なる試練……

そう、ここに集うのは個性の強い人たちばかり。当然、それぞれ違ったテイストの原稿が集まってくる。ここで、うまく繋ぎ合わせていくのが担当者の腕の見せどころである。

…のだが、編集ソフト（インデザイン）とのシンクロ率が低すぎてうまくレイアウトが進まない状態。そして、刻一刻と時は過ぎて行く。やばいやつや〜と思いつつも、どうにか形にすることができました。これから、もっと事業所のカラーを出していけるように、頑張って表現方法を磨いていきたいと思います。